

東洋大学福祉社会開発研究センター News Letter

2023_Vol.1

福祉社会における新たな価値の創発と支援システムの構築

INDEX

- ◆ ソンギョル大学校への訪問 . . . 1
- ◆ 各研究ユニット・グループの様子 . . . 2
- ◆ 科研費枠での研究について . . . 4
- ◆ 報告とお知らせ . . . 6



ソンギョル大学校への訪問

5月

2日に、志村健一センター長、古川和稔事務局長、伊藤允姫客員研究員の3名で、韓国ソンギョル大学校を訪問しました。総長、大学院研究科長、社会福祉学科長、国際交流委員長との懇談会では、交流協定締結に向けて、双方の方針を確認するとともに、今後、さらに交流を発展させていくことで同意しました。

その後、社会福祉学科所属の教授6名と、交流協定や今後の交流の具体的な内容について意見交換を行いました。午後は、水原市立老人療養院を訪問し、施設見学と、高齢者福祉について積極的な意見交換を行いました。

夜は、ソンギョル大学校社会福祉学科及び社会福祉大学院共同春季セミナーで、伊

藤允姫客員研究員が「日本の最近の社会福祉の動向」、古川和稔事務局長が「日本の新しい高齢者ケア（自立支援介護）」のテーマで講演を行いました。

6月24日に、ソンギョル大学校の学部生12名と教員2名が来日しました。午前中は東京リハビリテーションセンター世田谷を見学し、午後は、赤羽台キャンパスで、東洋大学の学生、赤羽八幡自治会会員との交流会を行いました。アジアのハブ大学化を目指す当センターにとって、大きな一歩を踏み出す韓国訪問となりました。





各研究ユニット・グループの様子－地域福祉グループ

今年

度から地域福祉グループは、コミュニティソーシャルワーク実践記録ツールの開発に関する研究（仮）を北区社会福祉協議会、板橋区社会福祉協議会と協働で進めていく予定です。

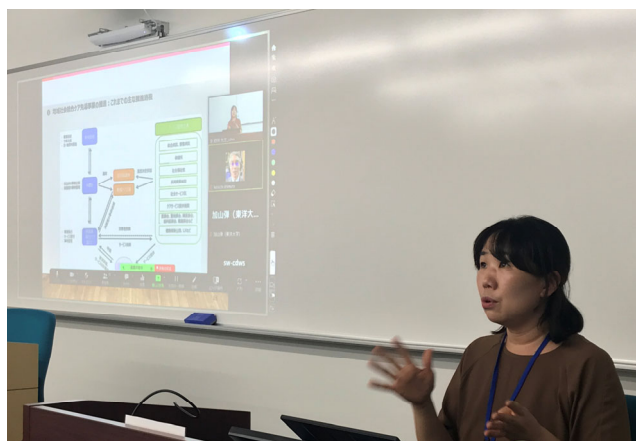
近年、社会的孤立・排除、生活困窮、少子高齢化等の地域生活課題が増幅する中、国は地域共生社会の実現を掲げ、自治体・地域単位での包括的支援体制整備を推進しています。地域生活課題の早期発見・対応のためには、公私の多様な主体の協働が不可欠で、そのためには制度・分野の垣根を越えたコーディネートや支援を担えるコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が重要な役割を担っています。

福祉社会開発研究センターは、地域におけるつながりづくりをめざし、2007年度より実証的な研究に取り組んでおり、さらにここ数年は、ICTを活用した福祉実践を主たるテーマとしています。そうした中、昨今の地域共生社会政策の展開、とりわけ重層的支援体制整備事業においてCSWの重要性が一層高まっている情勢を受け、社会福祉協議会におけるCSW配置促進、あるいはCSWと同様の機能の強化に資する研究を目指します。4月28日には、第2回目の合同での打ち合わせが行われ、問題意識の共有を行いました。加えて、6月30日は第3回目の打ち合わせを行いました。

また、6月19日には本センター主催で、李栖瑛先生の講演会「韓国のコミュニティケアとICTの活用」が行われ、遅い時間でしたが、25名の参加がありました。

韓国におけるコミュニティケアの発展経過やその中におけるICTを活用した先駆的なモデル事業などについて紹介がありました。特に驚いたのは、夜間などに相談対応を行う「AI福祉士」でした。そうしたモデル事業が活発化する一方で、自治体によってバラバラにアプリケーションが開発され、互換性がないなど課題もあり、モデル事業の成果や課題の共有することの必要性が指摘されていました。また、介護人材の高齢化も問題であり、技術の高度化・複雑化に50代以上の介護職がついていけないといった問題もあるとのことでした。

参観者より個人情報保護に関する質問が寄せられていました。自治体が一元的に管理するゆえの問題もあるが、個人情報を守るがゆえに起きる問題もあるという回答でした。





各研究ユニット・グループの様子－理論研究ユニット

6月 5日に理論研究ユニットの対象論グループの第1回研究会が開催されました。

対象論グループでは、荻野剛史 研究分担者が「社会福祉施設における外国人介護士導入～現在のプロセスの理解に向けて」と題する発表を行いました。介護人材不足を背景に、介護福祉施設等では、外国人介護士の導入が活発に行われています。外国人介護士により長く働いてもらうためには、その特有のニーズに対応する必要があります。結果では、受け入れに対するトップの対応、受け入れに対する成功体験の重要性などが指摘されました。その後の議論では、組織としての施設における外国人介護士導入の促進要因・戦略、導入によって生

じた・生じるだろう変化を聞く必要性などについてコメントがありました。

歴史・原理グループでは、6月30日に村川真一 研究分担者が「労働とのつながりの場についての一考察」と題する発表を行いました。現在、社会にはさまざまな「つながり」が存在します。この発表では、特に働く場所との「つながり」ということで、ソーシャルファームを題材に、検討が行われました。そこでは、ソーシャルファームが「つながり」を実現する機能を有していること、しかし、低賃金といった課題が残ることなどが指摘されました。議論では、「つながり」の概念の中身や、福祉と労働の関係などについて、議論が行われました。



各研究ユニット・グループの様子－障がいグループ

5月 12日、障がいグループの第1回研究会が開催されました。

テーマは「医療的ケア児が教育現場で置かれている状況」で、宮副和歩 氏（全国医療的ケアライン「アイライン」代表）より「医療的ケア児が教育現場で置かれている現状」と題する講演、および藤木聡美 研究分担者から「世田谷区での取り組みについて」と題する報告がありました。

宮副氏からは、医療的ケア児の定義や、

ご自身の経験を踏まえ、課題解決のために何ができるか、そして、医療的ケア児を教育現場で受け入れるということについてご講演いただきました。医療的ケアを受ける子どもが元気でいられる選択肢が増えたのに、生活の幅がせまくなってしまっている現状があり、そこを変えていく必要があるという指摘はとても重いものでした。

藤木先生からは、昨年度の世田谷区でのOriHimeを活用した取り組みについて報告がありました。



科研費枠での研究について ①

科研

：今年度は、①杉並区にある特別支援学校永福学園におけるOriHimeを活用した実践的研究、②分身ロボットカフェで勤務するパイロットを対象とした調査研究、③オンラインボッチャに関する実践的研究の3つが始動しています。

①は、文学部教育学科の高野聡子 研究分担者が中心となって実施するものです。まずは、5月19日にOriHimeを2台学校に持っていき、「OriHime体験会」を開催しました。先生方に実際に触ってもらい、操作などについて実際に体験してもらいました。授業での活用方法など、いろいろお考えのようでした。6月～7月は試用期間とし、9月以降本格的に研究を実施していく予定です。校長先生からは不登校の生徒がいるので、1台はその子が使用できるようにして欲しいとのことでした。



②は志村健一 研究代表と劉鵬瑶 研究協力者を中心に研究を実施していきます。具体的には、分身ロボットカフェで働くパイロットの方々に協力をお願いし、そこで働くことによる生活の変化やOriHimeが分身であるという感覚に迫っていこうとするものです。

まず4月11日に日本橋にある分身ロボットカフェに実際に行ってみました。店内は天井が高く、とてもおしゃれなカフェでした。実際にOriHimeを通して接客をしてもらうと本当にそこに誰がいるような感じがして、どうしてそういった感じがするのかとても不思議でした。研究を進めていく中で、そういった点も明らかにしていければと思います。食事後は、株式会社オリイ研究所の方と打ち合わせを行い、今後の進め方等を確認しました。6月以降、少しずつインタビューを行い、お話を聞かせていただいているところです。





科研費枠での研究について ②

科研

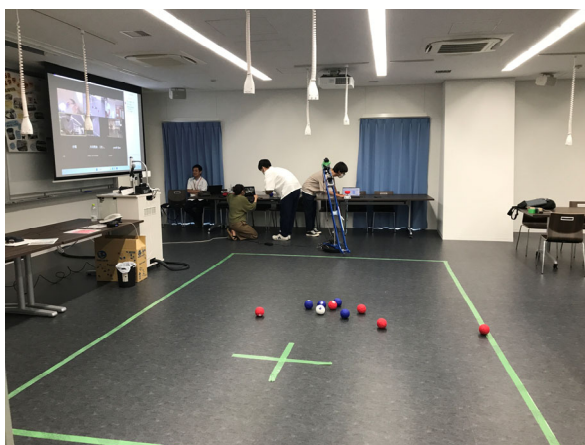
：③は、オンライン
ボッチャに関する研究

です。これも志村健一 研究代表と劉鵬瑶 研究協力者を中心に研究を実施していく予定です。

オンラインボッチャの詳細については、下記のオンラインボッチャ協会のHPを確認してください。

<https://online-boccia.net/>

今年度はまず志村ゼミの皆さんが6月14日にあいのわ福祉会の方々と今年度最初のゲームを行いました。オンラインから参加される方々以外にも、実際に現地（赤羽台キャンパスのボランティアセンター）で、参加してくれる方もいました。



また6月15日～17日、志村健一 研究代表が台湾にある朝陽科技大学へ視察に行きました。16日には福祉実践におけるICT活用に関して講演会を行い、その中で実際にオンラインボッチャをプレイしてみました。写真ではわかりづらいかもしれませんが、ノートPCに映っている人々は、皆さん台湾から参加されています。実際にやってみることで講演会に参加されていた方々も理解が深まったようです。

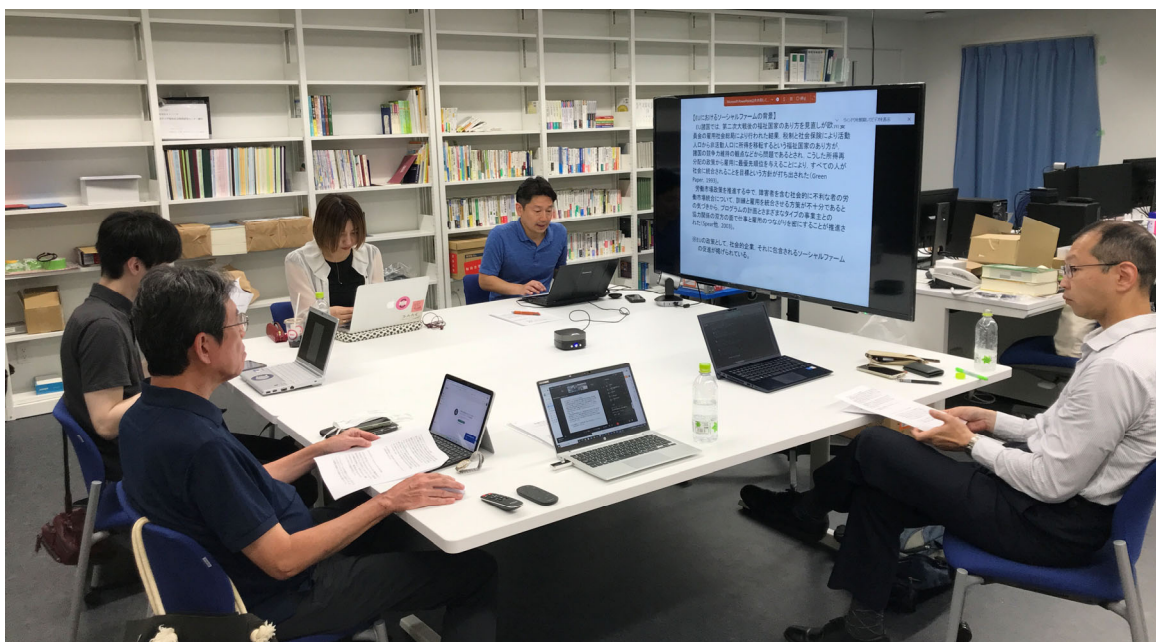
今後も、垣根を取り払って、さまざまな人、場所とつながっていければいいと思います。





報告とお知らせ

- ◆ **9月24日（日）午後**に当センターの前期シンポジウムを予定しております。詳細が決まり次第、情報をHPにアップロードしますので、ご確認ください。



研究会の様子



発行：東洋大学福祉社会開発研究センター

- ◆ 〒112-8606
東京都文京区白山5-28-20
- ◆ E-mail : cdws@toyo.jp
- ◆ TEL : 03-3945-7504